

今後の授業と補講について

今学期、正規の時間に授業が行われるのは、7月1日、8日、22日の3回です。7月15日は海外出張のため休講となります。

これに加え、2回分の補講を期末の補講期間中に行います。日程は未確定ですので、教務からの告知に注意しておいてください。補講の授業は、欠席をしても不利な扱いはしませんし、レポートの内容も、補講に参加しなくてもレポートが書けるような課題を出します。

レポートについて

この科目の評価は、レポートの成績に、レスポンス・シートによる問題点の指摘などによるボーナス点を加味して評価します。出席点はありませんので、出席状況が芳ばしくないものであっても、レポートが優れていれば、単位が付与されることがあり得ますし、逆に、出席状況がよくても、レポートが貧弱であれば、単位が与えられないこともあり得ます。

以下に示す指示は、厳守してください。以下の指示に従わない場合、大幅に減点することや、レポート未提出として単位を付与しないことがあり得ます。

レポートは

- ・必須レポート
- ・選択レポート
- ・選択レポートに関する感想

から成っています。選択レポートは、課題A～Cのうち1題を選んでください。

レポートの表紙には、学生番号、氏名等とともに、選択レポート課題として選んだA～Cいずれかの記号を明記してください。

必須レポートの分量は概ね800字相当以上、選択レポートの分量は概ね3000字相当以上を期待しています。しかし、内容が充実していれば、これより少ない分量でも構いません。分量の上限は設けません。

さらに、選択レポート本体とは別に、選択レポートに関する感想を、概ね200字～400字程度にまとめてください。これは独立した課題です。

必須レポート、選択レポート、および、選択レポートに関する感想は、ワープロ等を利用して印字するか、インクで清書したものを提出してください。印字する場合は、A4判たて位置の白紙に印字してください。読みやすくなるようレイアウト等に配慮がされていることを前提に、一枚の用紙に印字する字数や、レイアウトは特に制限しません。手書きで清書する場合は、A4判横書きの400字詰原稿用紙を用いてください。

レポート本体と感想は、ステープラー、2穴式フォルダー、綴じ紐、等の適切な方法で「必須レポート→選択レポート→選択レポートに関する感想」の順に綴じて提出してください。

レポートの提出は、7月中の指定された日に、教務課で受け付けられる見込みです。提出受付日については、教務課から公表される情報を必ず確認してください。

なお、万一の事故に備えて、レポートのコピーを手元に控えておいてください。デジタル・データを保存しておくという形でもかまいません。レポート提出後、万一事故があった場合や、成績発表後に成績照会が必要になる場合などには、レポートの再提出を求めることがあります。そのような場合、手元に控えが残っていないと救済措置を受けられない可能性が高いものと理解してください。

万一の際に直接迅速に連絡が取れるように、自分の連絡先となるメールアドレスを事前に通告しておきたい場合は、レポートの末尾（選択レポートに関する感想のページの最後）に、連絡を希望するメールアドレスを書いておいてください。これは、任意であり、義務ではありません。

必須レポート：概ね800字相当以上：

授業を受講し、印象に残った点について感想を述べてください。特に、授業をきっかけに自分で考えた内容や、授業に対して感じた疑問については、できるだけ具体的に述べること。

選択レポート：概ね3000字相当以上：

(A)

まず、東谷護・編(2003)『ポピュラー音楽へのまなざし』勁草書房 所収の論文のうち、1つの章を選び、その執筆者が発表している音楽に関する論文や著作のリスト(書誌を明記した文献表)を作成してください。この部分は字数に入りませんが、必ず選択レポートの最初に置いてください。

その上で、その執筆者による2つ以上の論文や本(『ポピュラー音楽へのまなざし』所収論文を含めてよい)を関連付けながら、その執筆者が行っている研究について自由に論題を設定して自分なりの議論を展開しなさい。単なる研究の紹介ではなく、自分自身の考えを盛り込むこと。

ただし、その執筆者による『ポピュラー音楽へのまなざし』所収論文からの効果的な引用を1カ所以上、必ず織り込んでください。

(B)

下に挙げる書籍から1冊を選び、その内容を活かした授業2回分を、この音楽史Aに組み込むとしたら、どのような授業を展開すればよいか。実際の講義の流れを踏まえ、歴史的な背景を十分に考慮した内容を構成して楽曲のプレイリストを作成し、具体的な授業実施案を提案してください。

- ・ 輪島裕介 (2010) 創られた「日本の心」神話、光文社新書
- ・ 渡辺 裕 (2013) サウンドとメディアの文化資源学、春秋社
- ・ 高増 明 (2013) ポピュラー音楽の社会経済学、ナカニシヤ出版

また、取り上げた書籍以外に、その授業の参考文献として受講者に勧めるべき書籍を紹介する、簡単なコメント付きの文献リストも示してください。

この課題を選ぶ場合は、レポートの表紙に「B」の記号とともに、取り上げる本の書名を明記してください。

(C)

ジャズの歴史に関する書籍を2冊以上を読んで、それぞれを関連づけながら内容を紹介する書評を書いてください。ただし、取り上げる書籍は、スウィングからモダン・ジャズへの移行期についてまとまった記述があるものに限ります。(もっぱらモダン・ジャズ以降の時代だけを取り上げた書籍は対象に含まれません。)

念のためですが、単なる読書感想文を求めているのではありません。書評ですから、必ず、内容の要約と、自分の立場から見た意見、論評を盛り込んでください。また、取り上げた2冊の本をどう関連づけていくのかという観点をはっきりわかるようにしてください。もっとも望ましいのは、一つの共通テーマについて、2冊以上の書籍を比較しながら紹介するという形式です。

なお、レポートの最初に取り上げる書物の詳しい書誌を明記してください。

選択レポートに関する感想：概ね200字～400字程度：

課題A～Cの選択理由を説明した上で、レポートを書いた感想を述べてください。

以上、いずれのレポート・感想についても、引用・参照文献(ウェブページを含む)は書誌(URLなど)をきちんと記すこと。

引用範囲や出典を明示せずに他人の文章を切り貼りしてレポートに組み込むのは、盗用であり、剽窃行為です。このような行為が判明した場合は厳格な対応をとります。なお、この点については、**2003年度**の音楽史Bのレポートについて述べた見解をご参照ください。

<http://camp.ff.tku.ac.jp/YAMADA-KEN/Y-KEN/ex-files/notice03.html#03AA>

レポートに関する質問は、「青山学院 音楽史A」という表題のメールにして、できるだけ早めに yamada@tku.ac.jp まで送ってください。